

島の心が息づく、
沖縄の民俗芸能がここに。

Heart of the Ryukyus

ハート オブ ザ リュウキュウズ

しまじまの 芸能祭

開場 14:30 開演 15:00

2023.12/17 日 JTAドーム宮古島

2024.1/13 土 那覇市文化芸術劇場
なは一と〈小劇場〉

2/4 日 首里城公園
〈芝生広場〉

入場無料 事前申込制

※定員に達し次第締め切りとなります。



Heart of the Ryukyus

ハート オブ ザリュウキュウス

しまじまの芸能祭

かつて琉球王国として栄えた沖縄の伝統芸能は、中国などからの使者をもてなす歌や踊りで首里城を中心に行われた「宮廷芸能」と沖縄の各地域の年中行事や祭りの時などに行われる「民俗芸能」の二つに分けられています。沖縄は、昔から芸能が盛んなことから「芸能の宝庫」ともよばれています。

今回、しまじまの芸能祭では、日本や中国・東南アジアからの影響を受けながら受け継がれてきた、沖縄各地域で年中行事や祭りなどで行われる「民俗芸能」をご紹介します。演舞を行います。

竹富町

新城民俗芸能保存会(舞踊)

本島で歌われている「遊びショングナー節」は八重山諸島の新城島(パナリ島)が発祥の地で、現地に伝わる八重山民謡「前ぬ渡節(まいぬとうぶし)」が原歌であると云われている。かつて新城島は水田を耕すことが困難な土地柄であったため、隣の西表島まで舟に乗って耕作していた。「前ぬ渡節」はシカマ渡しかまどう(通い耕作)の様子を歌ったもの。



名護市

大浦区村踊り(村踊り、ウシデーク)

地謡4人の歌・三線で幕開け後、「わんやこの村の百二十歳なゆる長者の大主」の口上で始まる「長者の大主(うーず)」、続いて五穀豊穡(ほうじょう)に感謝する「稲しり節」等がある。代々受け継がれている演目(「ゼイ」「高平良万歳」「柳」など)には大浦区ならではの特征があるという。



出演団体名(一部)



宮古島市

上区獅子舞保存会(獅子舞)

集落の守護神として、1600年代から受け継がれ舞い続けられてきた歴史ある獅子舞で、宮古島市の無形民俗文化財。獅子頭には、魔よけ厄除け、村落協和、五穀豊穡の三つの徳が入魂され、村の守り神として十五夜のその日に執り行われる豊年際で奉納される慣わしとなっている。



南城市

当間伝統芸能保存会(棒術、獅子舞)

当間区の棒術と獅子舞は、厄払いと五穀豊穡、健康と子孫繁栄を祈願して旧暦の7月17日(ヌーバレー)と8月15日(十五夜遊び)の年2回演じられている。特に獅子舞においては200年以上の歴史があり、南城市の無形文化財になっている。



中城村

伊集打花鼓保存会(打花鼓(ターファークー))

18世紀に名護親方によって那覇・久米村に創設された教育施設「明倫堂」で行われていた中国の戯曲を伊集出身者が習得。しかし、施設の廃止と同時に本拠で上演されなくなり、中国本土にも残っていない。伊集の若者たちだけが受け継いで現在に至っている。昭和60年に県の無形民俗文化財に指定された。



観覧者募集!



プロデューサー/宮本 亜門(演出家)

プロフィール/1958年東京・銀座生まれ。2004年には東洋人初の演出家としてオンブロードウェイにて「太平洋序曲」を上演し、同作はトニー賞4部門にノミネート。ミュージカル、ストリートプレイ、オペラ、歌舞伎などジャンルを問わず幅広く作品を手掛ける。2022年には映画「ベスト・キッド」をミュージカル化した「カラテキッド」をセントルイスで開け、そのあとオンブロードウェイを目指す予定。近著「上を向いて生きる」(幻冬舎)沖縄文化に惚れ込み20年以上移住した経験を持ち、1998年には沖縄を舞台とした映画「BEAT」でヴェネチア映画祭に正式招聘される。24年には国の重要無形文化財の「組踊」を新作として上演するなど、沖縄文化に精力的に取り組む。

- 応募方法/WEBサイトまたはお電話・FAXにてご応募ください。
- お申込み/Heart of the Ryukyus～しまじまの芸能祭～事務局
TEL/FAX:098-800-1438(土日祝除く9時～17時)